

どんびま

2015年6月12日発行
発行者 椛の湖農業小学校

山の小学校を残せ

中津川市の人口は減り続けている。10年前の合併時、86000人だったのが、5500人減ってしまった。合併時の坂下の人口と同じだ。人口だけで言えば町が一つ無くなってしまった勘定である。

旧町村部の人口減・高齢化は特に著しい。やさか地区(山口、坂下、川上)は合併と同時に中学校は統合され、小学校統合も時間の問題のように言われてきた。

合理化・経費節減と言われるが、市の負担は通学バスなどでかえって増える場合もあると云う。又、適正規模と言うが、私自身も同級生7名の小規模校だったが、町の中学校へ行って7名の仲間が劣っていると思ったことは無かった。

地域の学校を残すべきだと考える一番の理由は、学校は地域の文化、交流、元気の象徴であるということだ。学校が無くなれば地域は機能崩壊に向かって一直線に進んでしまうだろう。(草)



6月授業日のご案内

- 日程 6月21日(日)
- 受付 9:00~9:30
- 始めの会 9:30~9:40
- 授業 9:40~12:00
- お茶摘み・お茶もみ
- ほうば寿司作り
- 昼食 12:00~13:00
- 授業 13:00~15:00
- 畑の仕事
- 終わりの会 15:00~15:15
- 昼食 ほうば寿司・吸い物・ほうば餅
- 服装 作業のできる服装
- 持ち物 手袋、タオル、長靴、雨具、食器、箸、野菜持ち帰り用袋
- 締め切り 6月17日(厳守)
- 問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417
- 090-5110-9362 (山内總太郎)

～とくちゃんの農小レポート～

「若き早乙女達も大奮闘」

久しぶりに風薫る五月を感じながら、待望の泥んこ遊びならぬ、田植え体験をいたしました。初めての生徒も居ましたが全員が田んぼに入る事ができました。

- 1 午前の授業。** 畑の作業。南瓜苗の植え付け、先月配った種から育てた苗に、名札をつけて植えました。6月には育ち具合を確認してくださいネ！
二十日大根とホウレン草の収穫と小松菜の間引き、間引きして大きく育った小松菜は、来月収穫して持ち帰りとなります。じゃがいもの土寄せと草取り。
- 2 昼食。** ぼたもち、草もち（あんこ、きなこ）、おにぎり、天ぷら（かき揚げ、こんてつ）、ひじきのサラダ、大根人参のサラダ、小松菜のごまあえ、竹の子わらびの味噌汁、生玉ねぎ。農家では田植え（約一ヶ月）が終わると、「さなぶり」と云って農作業を労うと共に、田の神さまに感謝と豊作の願いを込めて、ぼた餅などをお供えしたものでした。農小も行事食の一つとして「さなぶり」をしますが、作業の手順により田植えの前におこないます。
- 3 午後の授業。** 田植え。綱を張り印の付いた位置に、3～4本の小さな苗を植えます。一株から約30本ほども増えますので、沢山植えつくと草丈のみが育ってしまいます。最近では泥んこ遊びも出来なく成っていますので、結構遊び気分で楽しんだようでした。事務局長の總ちゃんも久しぶりに、素足で田んぼに入り気持ち良かったそうです。
- 4 持ち帰り。** バケツ稲用の土と苗、かぶと虫の幼虫、二十日大根とホウレン草。バケツ稲の苗は沢山有っても、3～5本までにしてください。1本から数本にまで分けつ（沢山に増える）しますので、手引きに従がって管理をして下さい。カブト虫は今年は不作でしたので、一人一匹しか配れませんでした。何とか上手く育てて7月のかぶと虫運動会に参加してください。

～とくちゃんのちょっと一言～

田植えの頃になると思い出す。昔の田植えは一ヶ月位かけて終わりました。アボ兄の話にあったように牛や馬が動力源だったので、子供も大事な手間でした。牛や馬を田んぼの隅々まで誘導させるために、牛や馬の口先に竹竿を付け、その竿を持って行先を導く「鼻取り」と云う仕事がありました。子どもにはなかなか思い通りに動かせず、叱られたり泥んこになったりで大変な仕事でした。

最近では一町歩（1ha）位の田植えは一日も掛かりません。自分が農業をしていた頃は機械が田植えをしてくれる、とは思っても依らない事でした。農小の田植えのように一株ずつ手で植えていたので、一町歩近くあると5月末から7月始めまで掛かってしまいました。長い間には雨・風の日もあり雨具の無い時代にあっては、この時季は大人も子供も難行苦行の季節でした。

楽しみながら田植えが出来る？今の時代がとても羨ましい限りです。

～あぼ兄の百姓ばなし～

「お茶の力」

あぼ兄の母校、中津川市立下野小学校には 40a の茶園がある。学校茶園としては県内最大の面積である。5月に入ると芽が出そろい、茶園は綺麗な波をうっているようだ。

始まりは戦後間もない時、先輩たちは共同作業でこれを造り、PTAが栽培管理をした。当時は学費の支払いも大変な時代だった。PTAの運営経費はこの茶の収益で賄った。

祖父母との手摘み作業は永年続いて伝統行事になっている。今年は5月18日に行われた。地元だけでなく、遠方から参加の祖父母もあり、孫と一緒に経験のない作業に取り組む光景は農小に似ている。摘んだ茶葉は近くの製茶工場に委託され、出来あがったお茶はPTA会員はもちろん、各学校関係や一般にも販売される。その収益は茶園の管理費となり、残りはPTAの運営費に使う。

三世代の共同作業でお茶が出来上がると、恒例の「新茶を味わう会」を行う。今年は6月16日、保護者・祖父母さらに地域の人たちにも呼び掛ける。その折には、地元の人たちの作詞作曲の下野小学校茶摘み歌「きみどりのジュウタン」を子どもたちが歌う。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 学校坂の両わきにきみどりのジュウタン | 3 おじいちゃんおばあちゃん僕たちと私たち |
| かけっこしながら笑い声 | 心をこめて摘みました |
| 茶摘みの季節がやってきた | ゆっくりゆっくり味わって |
| お日さまパワーもらったやぶきた茶 | 湯のみにそそぐ緑の宝石 |
| 元気いっぱい下野のお茶 | 光り輝く下野のお茶 |

日本のお茶の歴史は古く、鎌倉時代からだという。長年作り続けたお茶の効能の正しさが今科学的に証明されている。国内のお茶生産地では消費量も多い。静岡県掛川市ではガンの死亡率が全国で最も低い。茶が秘めている健康長寿の力が話題になっている。

国立ガンセンターなどが5月に公表した調査結果によると、緑茶を1日5杯以上飲む男性は、ほとんど飲まない男性に比べて脳血管病で死ぬ危険性が24%、呼吸器病では45%だった。女性は心臓病で死ぬ危険性が37%減ったという。さらに健康寿命「自立して健康に生活できる期間」は女性が75歳で全国トップ、男性は71歳で2位だった。脳血管疾患や心疾患の死亡率も全国平均より低く、75歳以上の高齢者の一人当たり医療費が全国平均と比べると20%以上少ない。(岐阜新聞)

近年、自販機でも、主流が炭酸飲料からお茶に変わって、お茶の消費は回復してきたものの、古来の急須でいれる飲み方は少なくなっている。ある大学で、急須を見てこれは何かと尋ねたり、直接火にかけた話を聞く

そんなお茶離れの中、家庭で簡単に出来るお得な方法がある。

その1は、急須で一度入れた茶をすぐ捨てるのはもったいない。お湯を足して空のペットボトルに入れて、冷やして飲むと良い。

その2は、水出し茶だ。水で出すと旨味甘味は変わらず、苦味渋味が抑えられたお茶になる。ペットボトルのお茶に比べ経済的で、好みの味に出来るのが良い。

6月は茶摘みだ。家族で摘んで出来あがった茶で家族の茶話会を楽しもう。

～かなちゃんの虫日記～

先日、うちのろうかを小さな虫が歩いていました。アリのあとを
 思っあまり気にしていなかったら、まわりにもたくさんいました。

よく見ると小さなカマキリでした。それにしてもたくさんすき"る...と
 周囲を見回すと障子のさんにカマキリの印草が"ありました!!

冬の間ずっと気付かなか"った...カベや障子にはりついていたり
 ろうかを歩いていたりあちこちに散らば"っていました。まだふ化の
 途中のもいました。生まれたてでこんなに歩"けてすごい! 晴くん(息子)は

7か月半た"ってようやくズリバイで"きるようになったのに、おしりがふ"りっ
 している所は似てるねな"ど思いながら、つぶさないようにそ"う、と
 できる限りみんな外に出"しました。



ざ"と数えて70匹ぐ"らいいました。このうち成虫まで生"きられるのは
 ほんのおずか"です。エサ不足や他の虫に食"べられたりして死んでしま"う
 からです。カマキリは虫を食"べる肉食の虫です。なので火"田では
 害虫を食"べてくれる野菜の味方"です。カマキリ同士でも食"べて
 しまう"こともあります。オスは交尾後すぐ逃"げないとメスに食"べ
 られて"しまいます!

カマキリはえ"ものをとるのに適した"体をしています。まず、金"鎌。
 前足が金"鎌のようになって内"側にトゲがあり、つかま"えられたら
 逃"げられません。そして、目。前"向きについていて、え"ものとの距離"感を
 正"確にはか"れます。ライ"オンの目のつき方と似"ています。

草食のバ"ッタやシマウ"マは
 糸"長い顔の両"サイドに
 目"がついて"います。

